

大学院共通科目 平成 27 年度国際研究プロジェクト公開報告書  
ケニア国首都ナイロビ・キベラスラムにおける研究調査  
～生活環境・住空間に着目して～

システム情報工学研究科 社会工学専攻 社会工学学位プログラム博士前期課程 1 年  
201520488 徳永 光

## 背景

現在、発展途上国の多くの国でスラムは見られ、世界の 6 人に 1 人はスラムで生活していると言われている。スラム人口は今でも右肩上がりに年々上昇しており、世界的な問題となっている。しかし、スラム問題を抱える政府の対策の中には、十分な効果を挙げている事例が少ないと考えられる。

そこで、長期開発戦略ビジョン 2030 により大きな発展を遂げている一方で、スラム問題の解決がみられないケニアの首都ナイロビにあるキベラスラムを対象に、スラムの現状とインフラの整備をはじめとする生活環境改善活動についての諸文献を整理した。キベラスラムは、アフリカで二番目に大きいスラムと言われており、インフラの未整備は深刻であり、無秩序な開発により、水路や電気、道路の整備、施設の建設は容易ではなく、水供給施設、学校や病院など、生活に必要なさまざまな施設が不足している。長期開発戦略ケニアビジョン 2030(長期開発戦略)および国連組織や NGO 団体などの開発協力団体が行う取り組み(短期的取り組み)に関する文献を整理した結果、政府は再開発によるアプローチを行っており、開発協力団体は再開発ではカバーしきれない分野や地区への生活支援をそれぞれ行っていることが把握できた。しかし、財政などの問題から再開発では、スラム人口の増加に対応できないことや、開発協力団体の中には大規模なプロジェクトが少ないといった理由から、これらの取り組みだけでは十分な生活改善が望めないという現状があった。

## 調査目的

以上の背景を踏まえて、ケニア国首都ナイロビに存在するキベラスラムにおいて、インフラ施設、特に水供給・下水設備の現状把握、平屋の構造、管理の実態や形成過程などについて村落ごとに比較を行うことで、生活環境、住空間の違いについて把握することを目的とした。

## 調査方法と成果

2015/8/29~2015/9/14 にかけて、ケニア国首都ナイロビに存在するキベラスラムにおいて調査を行った。調査方法、実施内容、得られた成果はそれぞれ以下の通りである。

表 1. 調査方法・内容

調査方法	実施内容	調査成果
実測調査	<ul style="list-style-type: none"> <li>マキナ地区：7 棟</li> <li>リンディ地区：5 棟</li> <li>ライラ地区：3 棟</li> </ul>	平屋の構造の把握
ヒアリング (スラム住民)	<ul style="list-style-type: none"> <li>マキナ地区：40 部</li> <li>リンディ地区：37 部</li> <li>ライラ地区：28 部</li> </ul>	生活環境の把握
ヒアリング (政府組織・ NGO 団体)	生活環境改善活動の内容について質問、資料調達	インフラ施設、特に水供給・下水設備の現状、改善活動の特徴を把握
ヒアリング (ヌビアン族)	キベラスラムのバックグラウンド・歴史について質問	管理の実態や形成過程の把握

なお、表 1 のように、最も古い村（マキナ地区）、古い文化と新しい文化が混在した村（リンディ地区）、最も新しい村（ライラ地区）を研究対象地に選定し、研究調査を行った。

今回の調査により、キベラスラム内で生活環境の改善活動は活発になっているが、まだ発展途上であり、改善は十分でないことがわかった。特に住民へのヒアリング調査により、水供給・下水設備が最も深刻であることが分かった。ヒアリングを行ったほとんどの世帯で水道設備がなかったことも影響し、ヒアリングを行ったすべての地区で最も深刻な問題、生活環境を改善するため最も大切な設備について水インフラの回答が最も多かった。

実測調査の結果、平屋の多くは木で骨格を作り、泥だけで固めたシンプルな作りであることがわかった。地域ごとに、平屋の構造や年式、賃料に違いが見られた。実測調査を行った 15 棟の内、対象地初期から定住しているヌビアン族は平屋を所有しており、他の民族は平屋を借りていた。ヌビアン族の平屋は年式こそ古いものの、内部は他と比べ大きかった。また、平屋の値段も村落ごとに異なっており、このような違いは民族やインフラ設備など様々な要因が影響していると考えられる。



図 1. 実測調査を行った平屋



図 2. 汚染された川



図 3. 水供給所